

2022年度出力制御見通しについて

2022年9月14日

九州電力送配電(株)

- 2022年度における再生可能エネルギーの出力制御見通しについて、最新の再エネ接続量 及び 電源の補修計画を考慮しシミュレーションを実施しましたので、その結果をご報告いたします。
- 併せて太陽光・風力発電事業者のオンライン化状況についてご報告いたします。
 1. 2022年度の九州本土の再エネ出力制御見通し
 2. 電源（太陽光・風力）のオンライン化状況

- 2022年度の九州本土の出力制御見通しについて、次頁記載の前提条件及び運用方法に基づきシミュレーションを実施した結果、再エネ全体の出力制御率は3.0%となる見込み。

〈2022年度出力制御見通し〉

	出力制御率（制御電力量）【太陽光・風力それぞれの出力制御率】※1						
	旧ルール			新ルール	無制限・無補償 ルール	制御対象 設備計	全設備
	500kW以上 オフライン	500kW以上 オンライン	10kW～ 500kW未満 オフライン				
2022年度 見込み	5.0%※2 (1.1億kWh) 〔太陽光：6.2%〕 〔風力：2.0%〕	3.9% (1.4億kWh) 〔太陽光：3.9%〕 〔風力：1.7%〕	3.4%※2,3 (0.9億kWh) 〔太陽光：3.4%〕 〔風力：－〕	1.8% (0.0億kWh) 〔太陽光：－〕 〔風力：1.8%〕	4.1% (1.5億kWh) 〔太陽光：4.1%〕 〔風力：1.7%〕	4.0%※2 (4.9億kWh) 〔太陽光：4.2%〕 〔風力：2.0%〕	3.0%※4 (4.3億kWh) 〔太陽光：3.0%〕 〔風力：2.0%〕
(参考) 2022年度 IIP全体 オンライン化※5	3.1% (2.6億kWh) 〔太陽光：3.2%〕 〔風力：1.7%〕			1.7% (0.0億kWh) 〔太陽光：－〕 〔風力：1.7%〕	4.1% (1.5億kWh) 〔太陽光：4.1%〕 〔風力：1.7%〕	3.4% (4.1億kWh) 〔太陽光：3.5%〕 〔風力：1.7%〕	2.8% (4.1億kWh) 〔太陽光：2.9%〕 〔風力：1.7%〕

※1 各区分の出力制御量／各区分の総発電量(出力制御量含み)にて算出。全設備は10kW未満の出力制御対象外設備を含む総発電量（出力制御量含み）に対する出力制御量の割合を示す。

※2 オンライン代理制御分の出力制御率(制御電力量)は、オフライン相当（8時間）の制御時間に換算した値で算出。

※3 旧ルール10kW以上500kW未満オフラインは、オンライン代理制御導入(2022.12)以降の4か月間のみを出力制御対象としたときの値。

※4 実際の制御時間で評価した値。

※5 2022年4月以降、旧ルール10kW以上の事業者がすべて出力制御対象としてオンライン化を前提としたシミュレーション。

〈2022年度出力制御見直し(全設備)の内訳〉

	実績	見直し	
	4～6月	7～3月	年度合計
全設備	2.5% (1.1億kWh) (太陽光：2.6%) (風力：1.6%)	3.1% (3.2億kWh) (太陽光：3.2%) (風力：2.1%)	3.0% (4.3億kWh) (太陽光：3.0%) (風力：2.0%)

[シミュレーションの前提条件及び運用方法]

【前提条件】

- ・ 需要、太陽光・風力予測（実績）は2021年度データを使用
- ・ 太陽光設備量は、2022年3月末設備量に至近の伸びを考慮
- ・ 供給力には、2022年度補修計画を織込み
- ・ 火力は必要最小限、域外送電は関門連系線運用容量全てを織込み（優先給電ルール通り）

【運用方法】

- ・ オンライン代理制御導入時期は2022年12月とし、導入までの間（2022年4月～11月）は、2021年度と同様の運用
- ・ なお、オンライン代理制御導入に合わせ、旧ルール10kW以上500kW未満の事業者へ制御対象が拡大されるが、導入後の制御機会をもって旧ルール500kW以上の事業者との公平性を確保する運用を実施

【制御回数管理のイメージ】

	代理制御導入前	代理制御導入後	計
旧ルール500kW以上	20回	10回	30回
旧ルール10～500kW未満	制御対象外	10回	10回

} 同程度となるよう運用
 ☝ 30日に達するまで最大限活用

- ・ 風力発電については、JWPA方式への移行が完了するまでの間、2021年度と同様の運用

2. 電源（太陽光、風力）のオンライン化状況

- 旧ルール事業者のオンライン化を促進するため、メール発信や個別訪問等によりオンライン化のメリットをお伝えする取組を継続的に実施。
- 2022.3月時点で旧ルール太陽光事業者399万kWのうち約66%（265万kW）がオンラインへ切替。

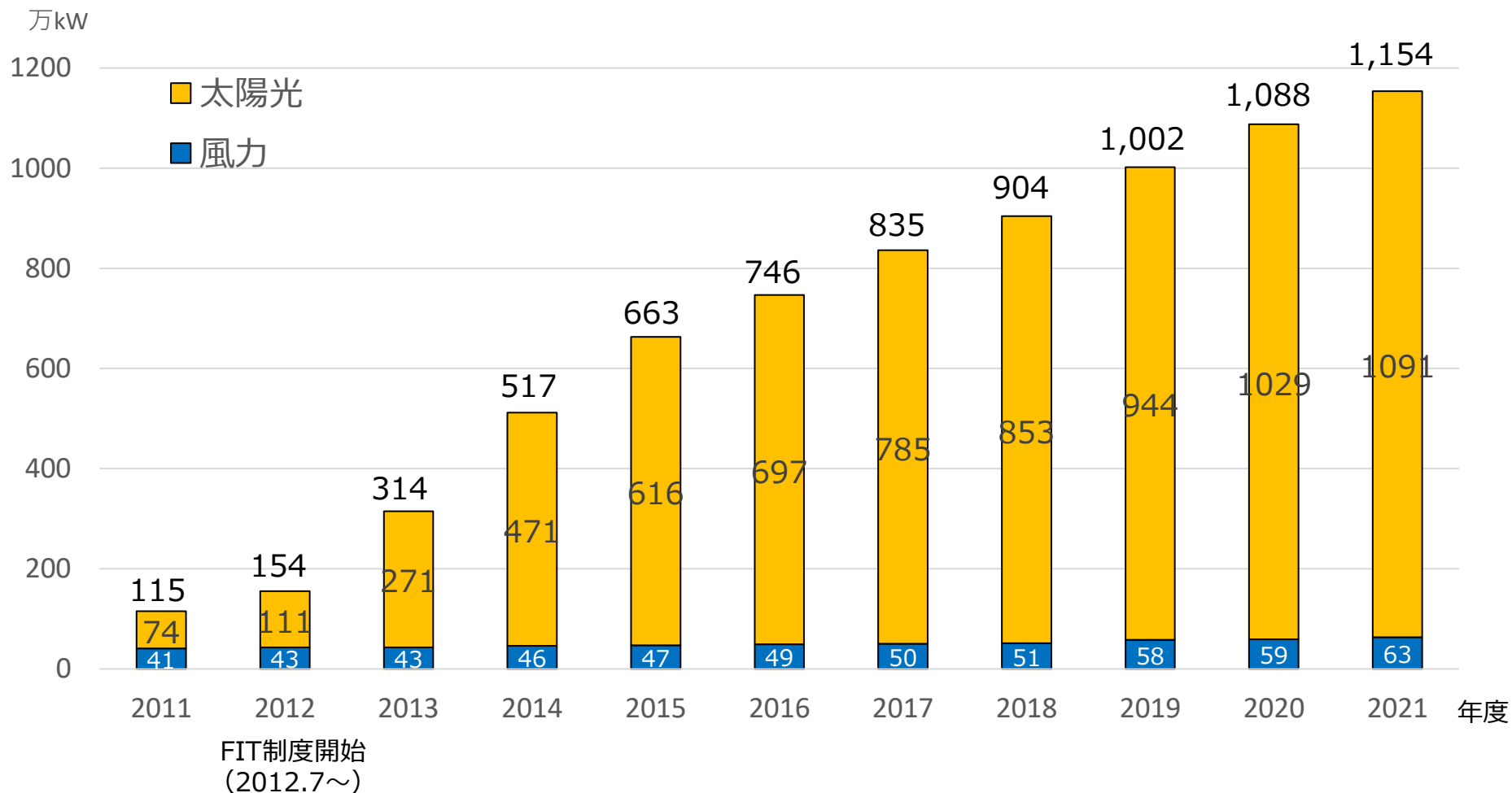
[九州エリアにおけるオンライン化の状況]

(万kW)

		2022年3月末	(参考)2021年7月末
太陽光	①オンライン比率 ((②+④) / (②+③+④))	80.0%	70.1%
	②新ルール・無制限無補償ルール、オンライン事業者	273	252
	③旧ルール、オフライン事業者	134	192
	④オンライン制御可能な旧ルール事業者	265	198
	⑤旧ルール事業者のオンライン切替率 (④ / (③+④))	66.3%	50.8%
風力	⑥オンライン比率 ((⑦+⑨) / (⑦+⑧+⑨))	24.3%	18.5%
	⑦新ルール・無制限無補償ルール、オンライン事業者	7.3	4.8
	⑧旧ルール、オフライン事業者	47.3	51.1
	⑨オンライン制御可能な旧ルール事業者	7.9	6.8
	⑩旧ルール事業者のオンライン切替率 (⑨ / (⑧+⑨))	14.2%	11.7%

※当面の出力制御対象事業者「旧ルール高圧500kW以上・特別高圧の事業者。新ルール・無制限無補償ルール事業者（太陽光10kW以上）」について算定。

- 2011年度～2021年度までの九州エリアの再エネ導入量(太陽光・風力)の推移は以下のとおり。
- 九州本土における太陽光・風力の接続量は、2012年7月の固定価格買取制度(FIT法)施行以降急増し、2022年3月末時点で1,154万kWとなっている。



- オンライン代理制御については、2022年12月の導入に向け以下のスケジュールのとおり、計画どおり準備を進めている。

		2021年度		2022年度			
		3/4期	4/4期	1/4期	2/4期	3/4期	4/4期
全体スケジュール				▼省令施行 (4/1)			▼代理制御の導入 (12月)
詳細 スケ ジュー ル	理解活動	DM送付	3月 ~ 5月				
		HP掲載	▼2月 制度概要、FAQ、説明動画などの掲載				
	運用関係整理			運用申合せ書の再締結			▼11月末
	システム開発	運用系システムの設計・改修・試験					▼11月末
		精算系システムの設計・改修・試験					▼12月末